

II 2014（平成26）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

今後の教育内容の改善、また充実した教育プログラムの維持・構築に役立てることを目的とする。本学大学院の教育の質的向上を目指して、全学的規模で「大学院生による教育評価アンケート」を実施した。

2. 実施方法

1) 実施期間

2014（平成26）年12月1日(月)～2015（平成27）年2月9日(月)に実施した。

2) 調査対象者

調査対象者：全研究科の大学院生

3) 在籍者数・回収数・回収率

研究科	専攻科	在籍者数 (名)	回収数 (名)	回収率
人間文化研究科	応用英語専攻	2	2	100.0 %
	人間文化専攻	3	3	100.0 %
	生活福祉文化専攻	9	5	55.6 %
	計	14	10	71.4 %
心理学研究科	発達・学校心理学専攻	3	2	66.7 %
	臨床心理学専攻	14	11	78.6 %
	計	17	13	76.5 %
計		31	23	74.2 %

4) 調査内容

最初に、回答者の属性（学年・所属研究科（専攻））を尋ね、次に当該科目に関する以下の項目について尋ねた。設問は選択式10問、自由記述2問であった。

調査項目

(1) 評価項目

選択式

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている
- ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである
- ③ 授業時間割はバランスよく配置されている
- ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている
- ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている
- ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている

- ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている
- ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている
- ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている
- ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

自由記述

- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください
- あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください

(2) 回答形式

選択式設問①～⑩については、以下の5件法で回答させた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない

5) 実施手順

人間文化研究科、応用英語専攻及び人間文化専攻については、教員が調査票を大学院生に対して個別に配付した。生活福祉文化専攻については、M1は中間発表会時、M2は修士論文指導教員から配付した。心理学研究科については、修士論文発表会時に配付した。回収は各大学院生が教務部学事課に提出した。

6) 結果の集計

調査票の印刷・封入作業および集計処理は、株式会社教育ソフトウェアに依頼した。

7) 教員への結果通知と集計結果の配付

研究科全体の結果は専任教員全員に、各専攻の結果は各専攻所属教員にメールに集計結果を添付し配信した。